



子どもたちの笑顔と成長を応援

毎日の暮らしの中で、 子どもたちを守る 清潔習慣づくり

清潔の習慣は、健やかに成長するためにも、小さい時から身に付けることが大切です。特に「手」は、いろいろな場所を触ったり、食べものを口に運んだりするため、常に清潔に保ちたい部分。さらに、学校のような集団生活を送る場所では、お互いに「手」から、汚れや菌をうつしあってしまいます。そこで花王は、小さな子どもでもきちんと汚れを落とせるハンドソープを開発し、手をきれいに洗うコツを歌で覚えてもらう出張授業を継続して実施しています。

子どもたちの清潔のための“よきモノづくり”

従来、主流だった液体タイプのハンドソープは、子どもたちにとっては手のすみずみまで泡を広げることが難しいものでした。そこで2004年、花王はポンプを押すだけで泡が出て、弱酸性でやさしく洗えるハンドソープを発売しました。以来、子どもの小さな手でも使いやすい形状のポンプにしたり、しつこい油汚れを落としやすくしたりする改良を進めています。

しかし、このように子どもたちに使いやすい製品があっても、実際の手洗いの様子を調査すると、ほとんどの子どもたちが手をきちんと洗えていないことがわかりました。そこで花王は、正しい手の洗い方を知ってもらうための出張授業「手洗い講座」を開発し、2009年から実施しています。



泡立ても苦手な子どもでも、簡単に手のすみずみまで広げられる泡で出てくるハンドソープ

「手洗い講座」のポイント

歌で洗い方のコツを覚える

正しく手を洗うには、ハンドソープを使って、手のひら、手の甲、指の間、手首など手のすみずみまで40秒以上かけて洗う必要があります。そこで花王は、正しく手を洗うための6つのポイントを歌にした「あわあわ手あらいのうた」をつくりました。歌に合わせて、順番にポーズをとって手を洗うと、手全体をきれいに洗うことができます。

この歌は、花王のウェブサイトでは動画やポスターなどで公開しており、学校や社会福祉施設・病院などでの教育にも使われ、多くの子どもたちに知られています。



手を洗う6つのポイントを楽しく歌で習得

クラス全員が実習に参加

「手洗い講座」は小学校の低学年を対象に、毎年約100校で実施しています。講座では、まず手を洗うことの大切さを学び、「あわあわ手あらいのうた」を歌いながら手の洗い方を覚えます。その後の実習では、クラス全員が汚れに見立てた塗料を手全体につけてから手を洗い、残った汚れを確認することで、洗うのが苦手な場所を見つけます。こうして「ちびっこ手洗い名人」となった子どもたちは、今度は家族をはじめとする周りの人にも、正しい手洗いを伝えていきます。

花王では、この出張講座以外にも、先生を通じて子どもたちへ手洗いの大切さを啓発する教材を用意しており、これまでに、日本の小学校の半数にあたる約1万校に提供しています。



正しい手洗いのポーズを学んでから実習

社員が講師として参加

「手洗い講座」には、必ず花王グループの各社・各部門から複数の社員が講師として参加します。そこには、45分間という限られた時間の中で、実際に製品を使って、子どもたち一人ひとりをきちんと指導し、楽しくきれいになってもらいたいという思いが込められています。

講師として「手洗い講座」を体験した社員たちは、子どもたちの笑顔を見て、たくさんの気づきを得ています。製品を提供することは、正しい使い方も伝えてこそ意味があること。社会に役立つ“よきモノづくり”とは何なのか、自分の役割として考えること。社員一人ひとりが持ち帰った思いは、それぞれの現場で活かされています。



教室に戻る子どもたちと社員がきれいになった手でハイタッチ

世界に広がる「手洗い講座」

「手洗い講座」は、台湾、タイ、インドネシアなど海外でも実施しています。一人でも多くの子どもが清潔で健やかに成長するために、花王はこれからも「手洗い講座」を広げていきます。



台湾の小学校での「手洗い講座」

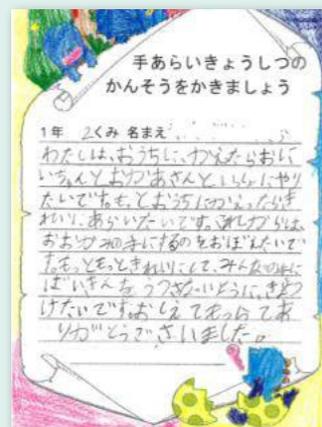
Voice

子どもたちの声

訪問した小学校の子どもたちから、お礼のお手紙や絵日記をいただきました。

「わたしは、おうちにかえたらおにいちゃんとおかあさんといっしょにやりたいです。(中略)もっともっときれいに、みんなの手にばいきんをうつさないようにきをつけたいです」

「てあらいのべんきょうをしました。てあらいをするうたのところがたのしかったです。てあらいのうたをおぼえてうちでもやります」



担当者の声

「子どもに対する使いやすさ、肌へのやさしさ、汚れの落としやすさも考慮しながら、さらなる改良を進めていきます」

「製品は、その役割と使い方が正しく伝わることで、その価値が向上すると考えています。『手洗い講座』は、子どもたちに向けてそれを具現化する活動だと考えています」





子どもたちの笑顔と成長を応援

6年分のありがとう。 小学校卒業前の大そうじ。

花王は、卒業を迎える全国の小学校6年生の児童たちが、6年間を過ごした学校や、お世話になった人々たちへの感謝を込めて、これからも学校を使う在校生のために学校をきれいにする活動を応援しています。

物を大切にするための“よきモノづくり”

花王は、毎日のそうじでは落としきれない、住居の気になる水あかや石けんかす、黒ずみなどの蓄積汚れを手軽に落として、輝きをよみがえらせるおそうじシートを2014年に発売しました。水をつけて磨くだけで汚れをはがしとり新品のような輝きをよみがえらせる、特殊な繊維でできたシートです。物があふれ、物に対する思い入れが薄れている時代に、気持ちを込めて磨くことで、あらためて物を大切にする心を伝えたいと、ブランド担当者は語ります。

このシートを使って、卒業を迎える小学校6年生の児童たちが、お世話になった学校の大そうじに取り組んでいます。



新品のような輝きをよみがえらせる、おそうじシート

6年分のありがとう。小学校卒業前の大そうじ。

「卒業前の大そうじ」のポイント

6年間を振り返りながら磨く

この活動は毎年3月に実施しており、90分で学校の大そうじを行ないます。児童一人ひとりにおそうじシートを配布し、担当箇所を決めています。毎日の学校生活の中で、知らず知らずに汚れが溜まっていた、蛇口やシンクなどの水回りや、窓のサッシやロッカー、扉などの汚れを、児童たちは何人かの班となり、シートを使ってピカピカに磨き上げていきます。

6年間という長い期間を過ごした小学校には、さまざまな思い出が詰まっています。教室や理科室、家庭科室といった、たくさんの手がふれてきた場所、いろいろなことを学んだ場所を磨いていると、今までのことが次々と思い出されます。

大そうじが終わると、磨き上げられ輝いている学校以上に、子どもたちの顔が輝いています。



「磨く」楽しさに笑顔があふれる

「ありがとう」のおそうじ

この活動は、学校の汚れを落とすことだけが目的ではありません。

おそうじをしながら思い出される6年間のさまざまな出来事を通じて、お世話になった学校や先生をはじめとした成長を見守ってくれた人たちに、あらためて感謝する機会ともなっています。さらに、これからも学校で毎日過ごす在校生のために「きれいな学校を引き継ぐ」という、社会の一員としての役割に気づく機会にもなっているのです。



6年間を過ごした学校への感謝の気持ちがわいてくる

子どもたちの笑顔と成長のために

これからも花王は、きれいにする事の大切さや楽しさを子どもたちに積極的に伝え、子どもたちの笑顔と成長を応援します。

Voice

校長先生から

東京都豊島区要小学校 校長 川合 一紀 先生

2016年、当校は初めてこの活動を実施しました。思いを込めて磨くことを通じて、次に使う人の立場に立って物事を考え、いつも使っていた物や場所、それを支えてくれている人たちに思いを至らせ、感謝することのきっかけとなっているように思います。これからも、卒業前の恒例行事にしていきたいと考えています。



担当者の声

「2016年に135校から始めたこの活動は、2017年3月には741校にまで広がりました。今後も積極的に活動を推進していきたいです」

「きれいになったことが目に見えてわかり、そうじの楽しみを実感できるのがおそうじシートの特長のひとつ。児童に楽しみながらそうじをしてもらいたいです」



マジックリン「卒業前の大そうじ 要小学校」ドキュメント映像
<https://www.youtube.com/watch?v=yMHZmVQ8b5s>